

1 学校教育目標

- 1 確かなキャリア観の形成を促しながら、勉学、仕事の両立を支援する。
- 2 自分自身の可能性を発見し、夢の実現に向けて真摯に努力する生徒を育成する。
- 3 元気で、礼儀正しく、人と人とのつながりを大切にできる生徒を育成する。

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)

- ・生徒一人ひとりが正しい職業観と将来像をもてるように、キャリア教育の体系化をさらに図るとともに、早期から質の高い進路プログラムと個別指導とを結び付け、効果をさらに高めることが課題である。
- ・授業規律を高めたことで年々学習への取り組み方は向上している。引き続き基本的な生活習慣の確立と基礎学力やコミュニケーション能力の向上に向けた指導の充実・工夫を継続していく必要がある。
- ・学校生活や社会生活に必要な規範意識・マナーの向上をめざした生徒指導を継続して行う。また、全教員で情報を共有して生徒理解に努め、体験活動を重視した様々な取組を実践するなかで、主体性や自己有用感を高め「生きる力」を育んでいく。
- ・多様なプログラムと個別指導を組み合わせ、正しい職業観と将来像をイメージできる進路指導を推進する。また、一人ひとりの進路目標の明確化を図りながら、実現に向けたきめ細かな指導を充実させる。
- ・各教育活動のマニュアルの見直し・改善や記録の整理等、情報共有と校務の効率化を図り、組織的な学校運営による学校の総合力の向上に取り組む。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

- 「自立した社会人の育成をめざす、組織的なキャリア教育の推進」**
- ・生徒総会で自ら定めたチャレンジ目標「時間厳守、早めに行動！」への取組を促す。また、生徒一人ひとりが学力伸長を実感し、意欲的に授業に取り組めるように指導方法等の工夫・改善に取り組む。
  - ・学校生活や社会生活に必要な規範意識・マナーの向上をめざした生徒指導を継続して行う。また、全教員で情報を共有して生徒理解に努め、体験活動を重視した様々な取組を実践するなかで、主体性や自己有用感を高め「生きる力」を育んでいく。
  - ・多様なプログラムと個別指導を組み合わせ、正しい職業観と将来像をイメージできる進路指導を推進する。また、一人ひとりの進路目標の明確化を図りながら、実現に向けたきめ細かな指導を充実させる。
  - ・各教育活動のマニュアルの見直し・改善や記録の整理等、情報共有と校務の効率化を図り、組織的な学校運営による学校の総合力の向上に取り組む。

4 自己評価

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	実践目標の達成状況の診断・分析
教育方針	自立した社会人の育成をめざす、組織的なキャリア教育の推進	キャリア教育年間計画に基づく分掌・学年・教科等の協働、及び、外部人財を活用した「生きる力」の育成	4:多様なプログラムを実践し、十分に成果をあげることができた。 3:多様なプログラムを実践し、ある程度の成果をあげることができた。 2:プログラムの実践が不十分で、あまり成果をあげることができなかった。 1:プログラムの実践が不十分で、全く成果をあげることができなかった。	4	外部講師による「進路ガイダンス」「進路講演会」や「キャリアプランニング」学習等を計画的に実施するとともに、進学課外を充実させた。生徒の主体性の高まりとともに、進路実績が上がった。
学習指導	学習習慣の確立と基礎学力の定着	教材の工夫、授業の進め方などを改善し、授業内で基礎学力の定着	4:授業評価で教員・生徒共に「肯定的評価」が90%以上であった。 3:授業評価で教員・生徒共に「肯定的評価」が80%以上であった。 2:授業評価で教員・生徒共に「肯定的評価」が70%以上であった。 1:授業評価で教員・生徒共に「肯定的評価」が70%未満であった。	4	教材研究や授業中における発問の工夫に対する評価は高い。始業前の課外授業に参加する生徒もおり、生徒の学習意欲は向上している。
生徒指導・特別活動・教育相談	社会生活を営む上で大切な知識・マナーやコミュニケーション能力・基本的な生活習慣等の育成	生徒の「生きる力」を育む多様なプログラムの実践	4:生徒の「生きる力」を育むプログラムを8回以上実践した。 3:生徒の「生きる力」を育むプログラムを7回実践した。 2:生徒の「生きる力」を育むプログラムを6回実践した。 1:生徒の「生きる力」を育むプログラムを5回以下しか実践しなかった。	4	避難訓練・体育大会・生活体験作文発表会・遠足・交通安全教室・薬物乱用防止教室・保健教育・消費者教育など様々なプログラムを実施し、生きる力の育成を図った。多くの生徒が意欲的に取り組んだ。
		生徒の主体性と満足度を重視した特別活動の実践	4:特別活動において、生徒の主体性と満足度への評価が80%以上であった。 3:特別活動において、生徒の主体性と満足度への評価が60～80%であった。 2:特別活動において、生徒の主体性と満足度への評価が40～60%であった。 1:特別活動において、生徒の主体性と満足度への評価が40%未満であった。	4	生徒総会でのチャレンジ目標設定や学校への要望事項議決など、生徒会活動をはじめ特別活動において主体性と積極性が見られた。
		スクールカウンセラーと教員の情報共有・連携によるいじめ・不登校の防止	4:情報交換会を年間5回以上実施し、いじめ・不登校を防止できた。 3:情報交換会を年間4回以上実施し、いじめ・不登校防止に効果があった。 2:情報交換会の実施回数は年間3回以下であった。 1:情報交換会は実施しなかった。	4	Fit分析や発達障害に関する研修をテーマとして、スクールカウンセラーを交えた情報交換会を5回実施し、いじめ・不登校をほぼ防止できた。
進路指導	ひとりひとりの進路実現のための、きめ細やかな進路指導	生徒のキャリア観形成を促す教育活動の実践 生徒の進路希望を実現するための個人指導・個人面談の充実	4:キャリア観形成を促す教育活動を9回以上実践した。 3:キャリア観形成を促す教育活動を8回実践した。 2:キャリア観形成を促す教育活動を6回以上実践した。 1:キャリア観形成を促す教育活動を5回以下しか実践できなかった。 4:生徒一人当たり年間5回以上個人指導・個人面談を実施した。 3:生徒一人当たり年間4回個人指導・個人面談を実施した。 2:生徒一人当たり年間3回個人指導・個人面談を実施した。 1:生徒一人当たり年間1回か2回の個人指導・個人面談を実施した。	4	校外における進路ガイダンスの実施や職業観・勤労観の育成をめざした職業DVDの視聴などを取り入れ、昨年度までの取組を充実進化させた。 各担任による個人面談をはじめ、個々の教育活動において個人指導・面談を随時実施するとともに、その情報を教員間で共有することができた。
業務改善	日常的な業務	改善に向けた取組実施後の反省・課題の記録作成と共有	4:取組実施後、アンケート等を行い、課題や反省点を全教職員が共有することで改善への見通しが立てられた。 3:取組実施後、課題や反省点をもとに、ある程度改善への見通しが立てられた。 2:取組実施後、課題や反省点が出たが、改善への見通しは十分には立てられなかった。 1:取組実施後、課題や反省点を振り返ることなく、改善につなげられなかった。	4	学校行事や各種の教育活動実施後にアンケートを行い、反省点・改善点等の記録を残すことで、改善への見通しを持つことができた。次年度に活かしていきたい。
	勤務環境	不要なデータの廃棄と職員室の整理整頓による業務の効率化	4:廃棄と整理整頓が十分できたことで、効率よく業務が遂行できた。 3:廃棄と整理整頓がある程度でき、業務が遂行できた。 2:廃棄と整理整頓があまりできず、業務の効率が上がらなかった。 1:廃棄と整理整頓ができず、業務の効率が下がった。	3	職員室・多目的室の整頓を維持し、業務が円滑に遂行できた。電子データの整理については、さらに改善をすすめたい。
	職員室の環境整備	不要なデータの廃棄と職員室の整理整頓による業務の効率化	4:廃棄と整理整頓が十分できたことで、効率よく業務が遂行できた。 3:廃棄と整理整頓がある程度でき、業務が遂行できた。 2:廃棄と整理整頓があまりできず、業務の効率が上がらなかった。 1:廃棄と整理整頓ができず、業務の効率が下がった。	3	職員室・多目的室の整頓を維持し、業務が円滑に遂行できた。電子データの整理については、さらに改善をすすめたい。

5 学校関係者評価

学校関係者からの意見・要望等	評価
・試行錯誤しながらも、多様なプログラムを実践し、進路面でも成果が上がったことが分かった。自立した社会人の育成に向け、さらに取組を充実させていきたい。	A
・授業参観等を通じて、生徒との良好な関係を保ちながら工夫して授業をされている様子が見られた。授業の質が向上し、生徒の学習意欲が向上していると感じた。学力のさらなる向上を期待する。	A
・生徒を取り巻く社会環境に留意しながら、規範意識の向上に向けた取組を行い成果を上げている。 ・スクールカウンセラーを交えた生徒情報交換会は、生徒理解にとって有効な取組であるので是非継続していただきたい。 ・情報モラル教育、及び、主体的な生徒会活動のさらなる充実を期待する。	A
・進路カルテを活用した進路情報交換会により、必要な情報が共有されていることが分かった。 ・試行錯誤しながら、生徒の進路実現に向け、取組の充実進化をさらに図ってほしい。	A
職員室等の整理整頓は維持され、業務の効率化が図られている。電子データの廃棄・整理については、取組をさらに進めていただきたい。情報の管理については、高い意識を引き続き維持していただきたい。	B

6 学校評価総括(取組の成果と課題)(案)

- ・自立した社会人の育成をめざし、各分掌が連携し活動プログラムを計画・実施した。総合的な学習の時間における取組を改善しながら主体性を高めることができた。【教育方針】
- ・授業への取り組み姿勢は良好で、授業公開・授業評価においても肯定的な評価を得た。三修制については、本校での出席・学習状況等により一定の許可基準を設定しているが、今年度は6名中5名が達成できた。【学習指導】
- ・生徒の実態(家庭、就労状況等)把握に努め、チームとして生徒指導を推進した。「交通」「災害」「薬物」「情報モラル」等身近にある課題について指導を深めるとともに、授業規律は良好な状態を維持している。ささいなことや初期段階から担任・生徒指導部及び全教職員の連携により指導を行ったことで、大きな問題は起こっていない。【生徒指導】
- ・生徒によるチャレンジ目標の設定等、主体的な取組を生徒会活動を軸に展開した。自己存在感・肯定感・有用感を高めることができ、特に部活動において大きな成果を得た。【生徒指導】
- ・「進路カルテ」をもとに「進路情報交換会」を実施し、生徒の現状や進路課題を共有できた。卒業生4名のうち、大学(2名)、専門学校(1名)、自己就職(1名)と、全員の進路が決定した。進路(就職・進学)計画に対する生徒・保護者の理解をさらに高め、主体的な行動に結びつけることが課題である。【進路指導】
- ・職員室・多目的室等の整理整頓は維持されており、業務が円滑に遂行された。電子データの整理整頓に不十分な点があり、今後の課題である。【業務改善】

7 次年度への改善策

- ・落ち着いた授業環境を維持し、シラバスにより年間の学習の見通しを生徒に持たせるとともに、生徒の実態に応じて教材を工夫し学習意欲をさらに高める。三修制については、随時、状況を把握する。
- ・生徒会活動等特別活動では、生徒への早い段階での主体的活動を促し、取り組み姿勢を肯定的に評価することで自己肯定感・有用感を高める。
- ・生徒一人ひとりが正しい職業観と将来像を持って、入学後早い段階で生徒指導に努め、進路カルテの活用により進路指導を推進する。進路関係の活動プログラムの質を高めるとともに、個別指導と結び付け、より効果的に展開する。就職・進学の流れ(進路計画)を生徒・保護者が理解できるように、その周知に努める。
- ・職員室・多目的室の整理整頓を維持し、適宜不要なもの廃棄処分を行う。資料(紙媒体・電子データ)の整理をさらにすすめる。